

# JFM だより

# Vol.14

※JFMとは、  
Japan  
Finance Organization  
for Municipalitiesの略称です。

今号の表紙.1

## 愛媛県宇和島市 市立宇和島病院



### INDEX

JFMトピックス	… P1
JFMをもっと知って!	… P2
<b>融資 の実</b> 愛媛県宇和島市 市立宇和島病院	… P3
愛媛県今治市 今治港	… P5
がんばる公営競技	… P7
自治体ファイナンスよもやま話	… P9
地方支援ダイアリー	… P11
基金運用ひとくちメモ	… P13
JFM人事交流日記	… P14
平成28年度 新卒職員募集中!	… P15
私たちもJFM債買ってます!	… P15

今号の表紙.2



## 愛媛県今治市 今治港

地方の、地方による、地方のための



地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities



今治港に設置されたジブクレーン(左)

Feature2

愛媛県今治市 今治港



# 港から始まったまちを、 交流の始まるまちへ

日本最大の海事都市、今治。港から発展してきたまちに、かつてのにぎわいを取り戻すため、「交通」の港から「交流」の港をコンセプトに、市民と一体となって、港の再生に取り組んでいます。



海事産業の一大集積地



荷役作業

## 海とともに生きるまち



治は、瀬戸内の海上交通の要として古くから海運業が発達し、港を中心に歴史や文化を創り出してきました。海運業から始まった海事産業は、多くの市民の生活を支えています。市内にある関連企業は、海運業274社、造船業14社、船用工業160社と、日本一の企業数を誇り、人口約16.5万人のうち、5人に1人は海事関連者を家族に持つといわれています。

物流拠点として80年余りの歴史を持つ今治港。船の大型化、貨物のコンテナ化に合わせた拡充工事、コンテナ専用停泊

所と3万トン級の船が接岸できるふ頭の整備など、時代に応じて変化し続けてきました。平成8年には荷役の効率化を目的に、四国で最初となるガントリークレーンを設置。平成23年にはジブクレーンを設置し、2台のクレーンによる2隻同時の荷役が可能になるなど、さらなる拡充を進めています。

また、物流施設に加え、親水防波堤や親水緑地なども整備するなど、市民が海と触れ合える場として親しまれています。

## 交流の拠点へ

### 港

を中心に発展してきた今治ですが、「しまなみ海道」の開通をはじめ、幹線道路の発達などにより港の利用者が減少。そこで、港が市民の交流拠点となることによって、地域活性化につなげたいと考えています。「本年12月に『みなと交流センター(仮称)』が完成する予定です。交流スペースとしての利用や、ラジオ局などにも入っていただき、情報発信の場としての利用も考えています」(今治市港湾振興課 若宮浩課長補佐)

交流センターを拠点にした新たな活動も検討しています。

「港のコンコースと交流センターをひとつの学習の場として捉え、市民の皆様にご協力いただき、習い事や様々な行事を開催しようと考えています。交流の拠点として、まちおこしにつながることを期待しています」(今治市港湾振興課 宮田悟課長)

交流拠点としての港の活用はすでに始まっており、市民運営のまつり『おんまく』では会場として港を利用。防波堤からの花火の打ち上げが好評で、毎年多くの方々で賑わっています。

平成21年度からは、西日本で唯一の国際海事展『バリシップ』の会場としても活用。一般向けに、造船所見学や新造船の進水式などのイベントを行い、多くの来場者を集めています。平成25年度の開催では、見学会参加者を含め延べ約8万人が来場。今年5月の開催では、海外からの出典ブースが増えるなど、過去最大面積、最多出展社数にて開催し、来場者数もさらに増加することが見込まれます。



新造船の進水式

## タオルブランドを構築した、 日本一のタオル産地

一方、今治は120年の歴史と伝統のある日本一のタオル産地としても知られています。瀬戸内の温暖な気候と水に恵まれた今治では、古くから綿花栽培が行われ、江戸時代に綿織物業が盛んになりました。明治期に入り、タオルの製造が開始され、今や国内生産量の約6割を占める国内最大のタオル産地へと発展を遂げました。

平成18年には、認知度の向上を目指し、クリエイティブディレクターに佐藤可士和氏を迎え、タオルのブランド化を推進する「今治タオルプロジェクト」を始動。「今治タオル」であることが一目でわかるブランドマーク&ロゴを作成するとともに、独自の品質基準を策定。基準を満たした製品にのみロゴの使用を認めることで、「今治タオルブランド」を確立しました。

タオルのブランド化により認知度は向上し、タオルの生産量や販売市場も拡大。市内で行われる「今治タオルフェア」の入場者数も年々増加し、地域の活性化にも寄与しています。

今治タオルのロゴマーク



品質基準を満たして販売されるタオル

日本最大の海事都市とタオル産地などの特色を持つ今治。港は交流の拠点へと生まれ変わり、今治発のブランドは世界を視野に発展。今治は新たなまちづくりに向け、着実に歩み続けています。



今治港から見える来島海峡大橋